Japanese Association for Religious Studies

れる。

二　明らかに社僧別当がいたのに、寺院としては全くカウントされず、神社のみで言及された場合。例としては、金沢市の現・大野湊神社（↓神社）、小松市の現・小松天満宮（↓神社）など、その他多くの山伏持ち宮。

領内全てについては未確認だが、おそらく神社のみが残り、別当は還俗したと推察される。

三　権現社を有していたことが確実なのに、神社としてはカウントされず、寺院のみで言及された場合。例の一パターンとしては、天台宗常光寺（↓金沢市豊田白山神社）、古義真言宗慈光院（↓金沢市石浦神社）、など神社に変わったケース。廃寺というより、境内の権現社を宗教活動の中心へとシフトさせ、神社となることを選んだ場合と解釈しておく。

例のもう一パターンとして、古義真言宗養智院（↓同寺のまま、金沢市）、古義真言宗那谷寺（↓同寺のまま、小松市）、のように寺院のままで境内社を伴うケースが見られる。

報告者がかつて論じた、近世に神仏習合的だった金沢の神社約二〇例は、もと山伏の持ち宮（第二類型）だったか、近世の寺主体から神社に変わった（第三類型のうち第一パターン）か、であった（由谷「神仏分離後に語られた藩政期の神社と社僧」、『宗教研究』三五三号、二〇〇七年）。

以上、本事例において神仏分離後、神社＋寺院、神社のみ、寺院（＋境内社）と対応が分かれるに当たって、近世における寺院―神社関係が何らかの前提の一にはなった、と結論できるのではないだろうか。

パネルの主旨とまとめ

藤本頼生

神仏習合の展開過程についての学問研究は、これまで、主に史料の分析などを通じ、歴史学や思想史学の分野から進捗してきた一方で、近代に行われた神仏分離施策についての研究は、法難史観に代表されるように、施策自体の是非や神道、仏教それぞれの得失を窺う傾向が見られたのも事実である。ゆえにこうした価値観を脱却し、神仏分離施策が如何に現代に至る宗教と社会との関わりを形成してきたか、あるいは、何故、神職と僧侶との区別、隔離がなされてきたのか、今一度歴史史料に基づき、緻密に分析を進めることで事実を明らかにしてゆくことが必要であると考える。この点、阪本是丸や村田安穂らの業績に示されるように、近年、神仏習合・分離の内容理解の上で、基本史料とされる『明治維新神仏分離史料』の誤記や誤謬を修正し、同史料以外の基礎的な資料となる各地方の史料の発掘とそれを用いた各地の実態的な分析研究の必要性が認識され、その成果の発表が求められるようになってきた経緯がある（阪本『近世・近代神道論考』二〇〇五、村田『神仏分離の地方的展開』一九九九、など）。

ゆえに本パネルでは、古代・中世以降の社寺の神仏習合の実態にはじまり、近世から近代の神仏分離に至るまでの神仏関係を、とりわけ神職、僧侶の観点から史料をもとに窺うことと

NII-Electronic Library Service

Japanese Association for Religious Studies

し、神仏分離に伴う宗教の構造変化の様相を各地方の事例発表をもとに幾許かでも検証することで、神仏関係史の再検討を目的とした。

パネルでは司会を藤本頼生神社本庁総合研究所研究員が務め、主旨説明を行ったのち、古代から中世にかけての神社組織、仏教組織にみる神仏関係について、加瀬直弥國學院大學研究開発推進機構助教が石清水八幡宮、北野天満宮の事例をもとに、仏教組織の神事への関与の実情、僧侶側の神事に対する意識の変容について発表を行った。次に太田直之國學院大學人間開発学部准教授からは、中世から近世にかけての賀茂別雷神社における神主・供僧の所領分割をめぐる相論などから神仏関係の変遷を窺う発表があり、神仏関係の背後には、幕府の秩序形成の志向の影響があったことが指摘された。次に本澤雅史皇學館大学教授からは、幕末、明治維新期の伊勢地方における神葬祭の受容について、神宮祠官の御巫清直の『神民略式』を手掛かりに、地域独特の風習である速懸の廃止や仏教的要素の排斥などについて宗教儀礼の側面からの発表がなされた。次に由谷裕哉小松短期大学准教授から発表があり、真宗王国の一つである石川県を中心とした神仏分離の実態について、神仏分離の経緯が近世以前の神社と寺院との関係によって左右されるという吉井敏之氏の先行研究（吉井「神仏習合の諸形態―大和国の場合」『神と仏のいる風景』二〇〇三）を参考にしつつ、実際に石川県内の旧加賀藩、能登藩領にあたる寺社を考察してみた結果、吉井氏の立論が石川県のケースには、当てはまらないものの、近世における寺院・神社の関係が神仏分離の何らかの前提の一にはなったのではないかとの指摘がなされた。

各人の発表に対して、佐藤眞人北九州市立大学教授より神事・仏事意識の変遷や社僧の問題について、日吉社を事例にコメントがなされ、神仏隔離の面での伊勢の神葬祭の特性についても指摘がなされた。また由谷氏の発表について、吉井氏の示した神仏分離の関係性に対して、大社寺の多い大和国と中小規模の社寺の多い加賀国という地域的な差異を如何に考えるのかという指摘があり、各人よりリプライがなされ、会場からも質疑があった。

個々の発表にて取り上げた事例の地域性、時代性という面では課題が残ったものの、神仏関係史を再考するという意味では、新たな可能性を実感できるパネルであった。

NII-Electronic Library Service